

2020年3月期 決算説明資料

2020年5月18日
日本システムウェア株式会社

2020年3月期決算概況

- 連結業績
- セグメント別概況
- 連結貸借対照表

中期経営計画 重点施策

- DX事業 初年度実績
- DX事業 取り組み事例

新型コロナの影響を踏まえた今後の見通し

資本政策、株主還元方針

連結業績 概要

(単位:百万円)

	2020年 3月期 実績	計画比		前年同期比		計画	2019年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
		売上高	38,273	+273	+0.7%		
営業利益	3,860	+360	+10.3%	+505	+15.1%	3,500	3,354
同率	10.1%	+0.9p	/	+0.8p	/	9.2%	9.3%
経常利益	3,898	+358	+10.1%	+491	+14.4%	3,540	3,407
同率	10.2%	+0.9p	/	+0.8p	/	9.3%	9.4%
当期純利益	2,668	+268	+11.2%	+381	+16.7%	2,400	2,286
同率	7.0%	+0.7p	/	+0.7p	/	6.3%	6.3%
受注高	38,544	/		+1,805	+4.9%	/	
受注残高	14,679			+271	+1.9%		
							14,408

➤ 売上、利益ともに計画達成し、8期連続 増収増益

連結業績 主な増減要因

計画比

【売上高】

ITソリューション	+215百万円
サービスソリューション	+53百万円
プロダクトソリューション	+4百万円

【営業利益】

売上増に伴う増加	+50百万円
収益性の改善	+550百万円
不採算案件の影響	△400百万円
販管費未執行 (研究開発費等)	+130百万円

前年同期比

【売上高】

ITソリューション	+856百万円
サービスソリューション	+648百万円
プロダクトソリューション	+661百万円

【営業利益】

売上増に伴う増加	+390百万円
収益性の改善	+650百万円
不採算案件の増加	△350百万円
販管費増 (人件費等)	△190百万円

ITソリューションセグメント 概況(1)

(単位:百万円)

	2020年 3月期 実績	計画比		前年同期比		計画	2019年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
売上高	13,415	+215	+1.6%	+856	+6.8%	13,200	12,559
ビジネスソリューション	4,774	/		△290	△5.7%	/	
金融・公共ソリューション	6,378			+609	+10.6%		
システム機器販売	2,263			+537	+31.1%		
営業利益	1,205	△44	△3.5%	△22	△1.8%	1,250	1,228
同率	9.0%	△0.5p	/		△0.8p	9.5%	9.8%

受注高	13,198	/		+494	+3.9%	/	
受注残高	6,181			△217	△3.4%		

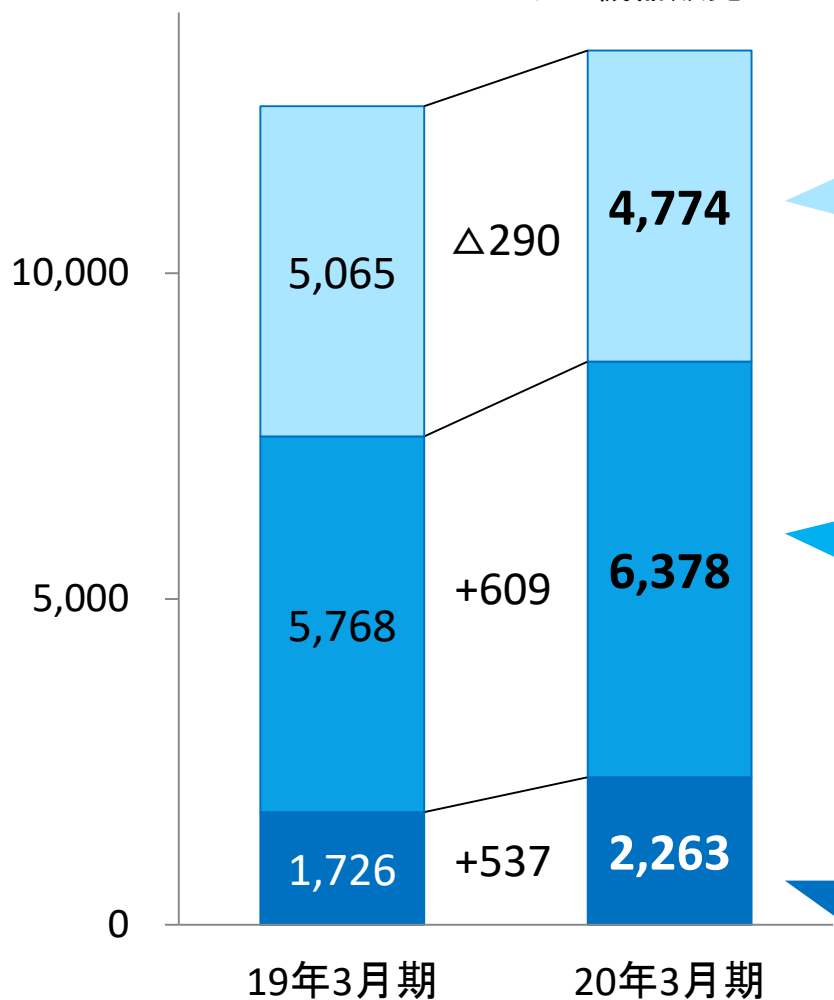
- 売上は、小売業向けシステム機器販売、官公庁・団体向けインフラ案件などが伸長
- 利益は、増収や一部大型案件の収益性改善による増加があったものの、不採算案件が複数発生(影響額△500百万円)し、減益

ITソリューションセグメント 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)

- ビジネスソリューション
- 金融・公共ソリューション
- システム機器販売



【ビジネスソリューション】

- 製造業向け、小売業向け
パッケージ関連は堅調推移も、一部受託案件の終了により減少
- 物流業向け
パッケージ関連、受託案件ともに売上伸長も、不採算案件の発生により利益は減少
- その他システム開発
情報通信業向け受託案件などが増加も、不採算案件の発生により利益は減少

【金融・公共ソリューション】

- 官公庁・団体向け
団体向けのシステム開発、インフラ構築案件などが増加
- 金融・保険業向け
スマート決済関連は増加も、生損保系案件が減少

【システム機器販売】

小売業向けのPOSシステムなどが増加

サービスソリューションセグメント 概況(1)

(単位:百万円)

	2020年 3月期 実績	計画比		前年同期比		計画	2019年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
		売上高	9,853	+53	+0.5%		
デジタルソリューション	2,343	/		+231	11.0%	/	
クラウド・インフラサービス	7,509			+416	5.9%		
営業利益	630	+250	+66.0%	+336	+114.3%	380	294
同率	6.4%	+2.5p	/		+3.2p	3.9%	3.2%

受注高	10,033	/		+958	+10.6%	/		9,075
受注残高	4,529			+180	+4.1%			4,349

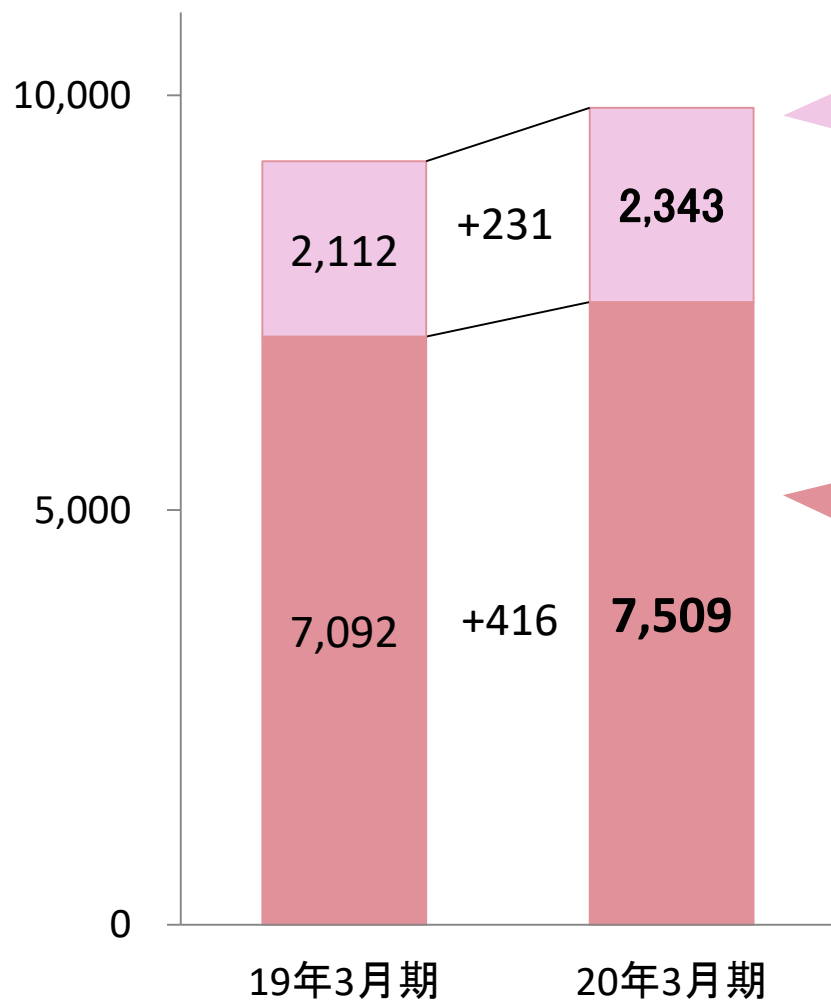
- 売上は、デジタルソリューション、クラウド・インフラサービスともに拡大し、増収
- 利益は、増収に伴う利益増に加え、より付加価値の高いサービス提供型ビジネスの伸長により収益性が改善し、増益

サービスソリューションセグメント 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)

- デジタルソリューション
- クラウド・インフラサービス



【デジタルソリューション】

- IoT・AI
製品IoT化を中心に案件大型化、AI関連の引合いも多くPoC案件増加
- WEB・EC
既存、新規案件ともに堅調に推移

【クラウド・インフラサービス】

- クラウド
既存システムのクラウド化案件等が増加
- インフラ・DC
ネットワーク構築案件や運用系サービスが堅調に推移
- その他サービス
データ連携サービスやWindows10対応などが増加

※ PoC (Proof of Concept): 新しい概念や理論やアイデアの実証を目的とした検証やデモンストレーション

プロダクトソリューションセグメント 概況(1)

(単位:百万円)

	2020年 3月期 実績	計画比		前年同期比		計画	2019年 3月期 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
売上高	15,004	+4	+0.0%	+661	+4.6%	15,000	14,342
組込み開発	8,753	/		+402	+4.8%	/	
デバイス開発	6,250			+259	+4.3%		
営業利益	2,023	+153	+8.2%	+191	+10.5%	1,870	1,831
同率	13.5%	+1.0p	/		+0.7p	12.5%	12.8%

受注高	15,312	/		+352	+2.4%	/		14,959
受注残高	3,968	/		+308	+8.4%	/		3,660

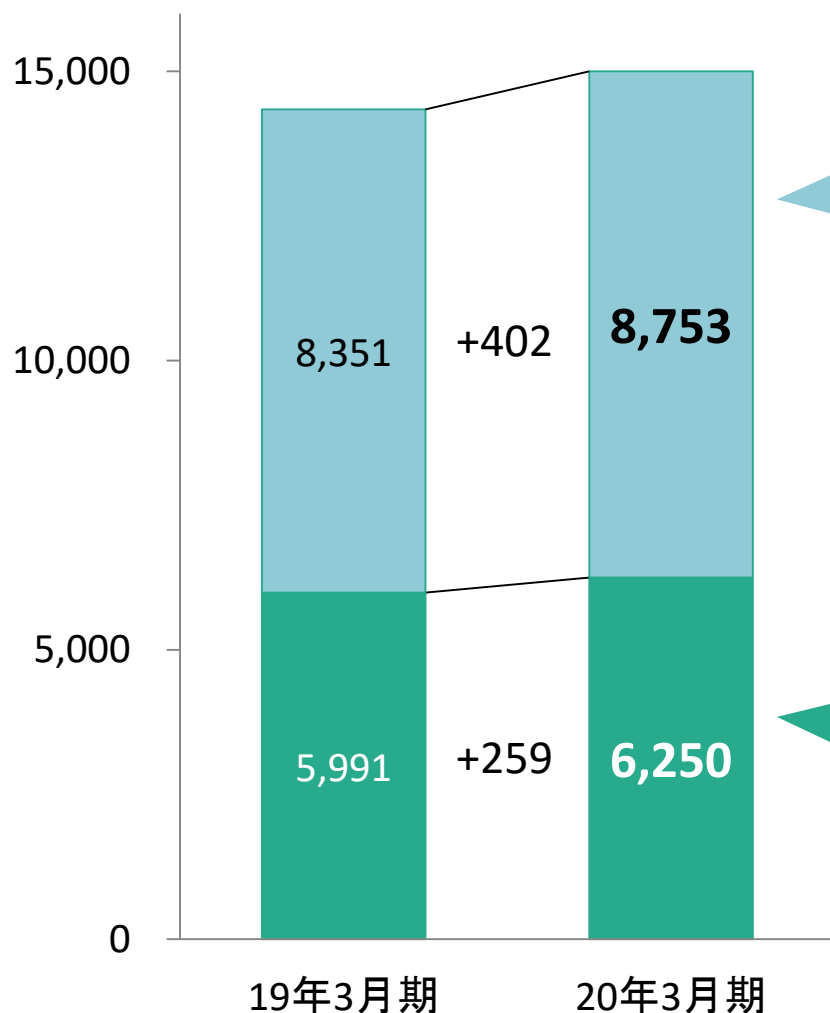
- 売上は、組込み開発における設備・通信機器分野やデバイス開発の拡大により、増収
- 利益は、増収に伴う利益増、デバイス開発における一部案件の収益性向上などにより、増益

プロダクトソリューションセグメント 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)

■ 組込み開発
■ デバイス開発



【組込み開発】

- 設備機器
産業設備、医療機器などの新事業領域が大幅拡大
- オートモーティブ
カーナビなど従来型のIVI関連が減少、CASE領域にシフト
- モバイル
通信キャリア向け開発案件が減少
- 通信
5G関連案件などが増加

【デバイス開発】

画像処理分野を中心に増加

※IVI(In-Vehicle Infotainment) : 主に車載領域で、情報(インフォメーション)と娯楽(エンターテイメント)を提供するシステムの総称

※CASE : Connected(コネクテッド)、Autonomous(自動化)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)の4つの頭文字をとった車の次世代技術や新サービスの造語

連結貸借対照表

Systemware

(単位:百万円)

	2020年3月期 期末	2019年3月期 期末	前期末比
流動資産	21,815	19,395	+2,420
固定資産	8,701	8,816	△115
資産の部	30,516	28,211	+2,305
流動負債	6,789	6,779	+9
固定負債	2,354	2,235	+118
負債の部	9,144	9,015	+128
純資産の部	21,372	19,196	+2,176
流動比率	321.3%	286.1%	+35.2p
固定比率	40.7%	45.9%	△5.2p
自己資本比率	70.0%	68.0%	+2.0p

現金及び預金	+3,077
受取手形、売掛金、 電子記録債権	△710
有形固定資産	△165

退職給付に係る負債	+116
-----------	------

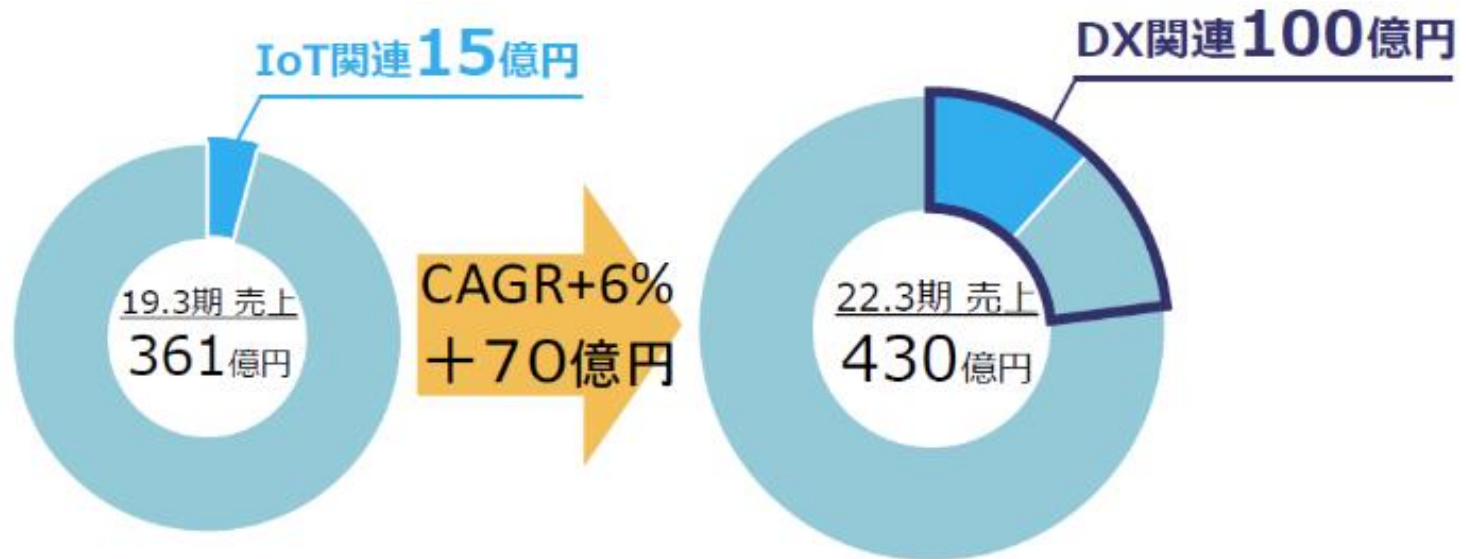
当期純利益	+2,668
配当金の支払	△484

中期経営計画 重点施策

スローガン(2019年4月～2022年3月)

DX FIRST

お客様のDX実現を先導する企業へ



- IoT・AIサービスをベースに当社が長年培ってきた業務ノウハウや技術力とさまざまな実現手段を組み合わせ
- お客様のビジネスモデル変革と業務プロセス改革に貢献し、お客様のDX実現を先導する企業として事業成長を加速してまいります

DX(Digital Transformation) :

企業が新たなデジタル技術を活用してビジネスモデルを創出したり、ビジネスプロセスを変えていく事業変革の取り組み

DX関連 初年度(2020年3月期)実績

注カポイント

- 製造業、建設業向けIoT・AI関連サービスの拡大
- パートナーセールスの活性化

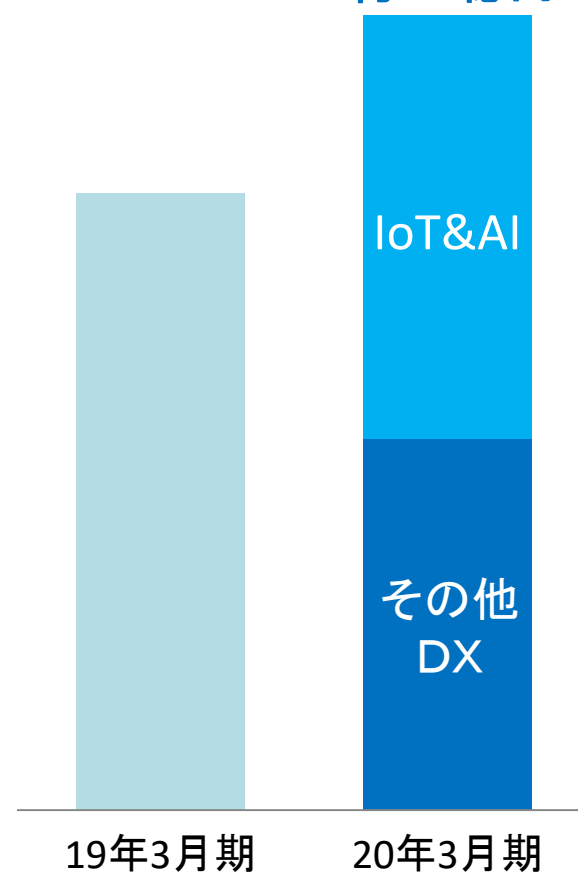
IoT&AI

- 当社が得意とする「製品のIoT化」で新規顧客開拓、大型案件対応が進む
- AIはPoCから本番活用へ展開

その他DX

- クラウドやデータ連携など既存デジタルビジネスを中心に拡大
- RealWearなど新サービス拡充
- 自動運転、ADAS領域の強化

売上高
約28億円



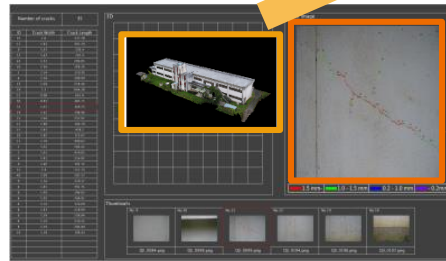
DX取り組み事例(1)

ドローンと画像処理AIを活用し、建物老朽化の効率的検査を実現

ドローンで
建物の画像を撮影



AIでひび割れ画像を解析、
建物と損傷箇所を3D表示



当社が開発したAIひび割れ判定
システム「CrackVision」を活用



✓ 今年3月、「建築検査学コンソーシアム(※)」を設立

AIソリューションとドローンなど先進技術を用いて、より多くの企業へ建築検査・調査の知識や正しい手法を全国に広く普及させることを目的として

※(株)建築検査学研究所 代表 大場喜和氏を中心に、共同研究企業の当社、運営事務局の(株)doと3社で設立。
当社はAIエンジンの作成とクラウドシステムの構築を担当。

DX取り組み事例(2)



昨年8月、米国RealWear社と販売代理店
契約を締結

- 音声操作で完全ハンズフリーを実現
- お客様に合わせたアプリケーションを提供
- 製造業、建設業等の現場作業を飛躍的に効率化

コロナ禍による移動制限！

- ✓ RealWearを活用したデータセンタ運用の遠隔作業支援サービスを開始
遠隔のお客様から指示を受け、スタッフが作業代行



アフターコロナの製造・建築現場、流通・物流の作業支援にも

新型コロナウイルスの影響を踏まえた今後の見通し

IT 業界 動向

- 新型コロナウイルスによる世界的な景気減速により、当面は企業の投資抑制が想定される
- 中長期的には、企業の経営やビジネスモデルの変革にITを活用するデジタル変革（DX）や、働き方改革推進による生産性改善目的のIT投資需要の継続拡大が期待される

- 中期経営計画（2019年4月～2022年3月）のもと、お客様のデジタル変革実現を先導する企業として事業成長と変革を加速
- 小売業や製造業をはじめとした主要顧客の動向に注視し、新型コロナウイルスがもたらすIT環境の変化に臨機応変に対応

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスが事業活動及び経営成績に与える影響が不透明であり、現時点で適正かつ合理的な算定が困難であることから、**未定**とさせていただきます。

業績予想の適正かつ合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

資本政策と株主還元方針

成長戦略と財務健全性を両立した財務戦略の実現

資本効率

- 健全な自己資本の水準を維持
- 株主資本利益率(ROE)12%以上の持続的成長

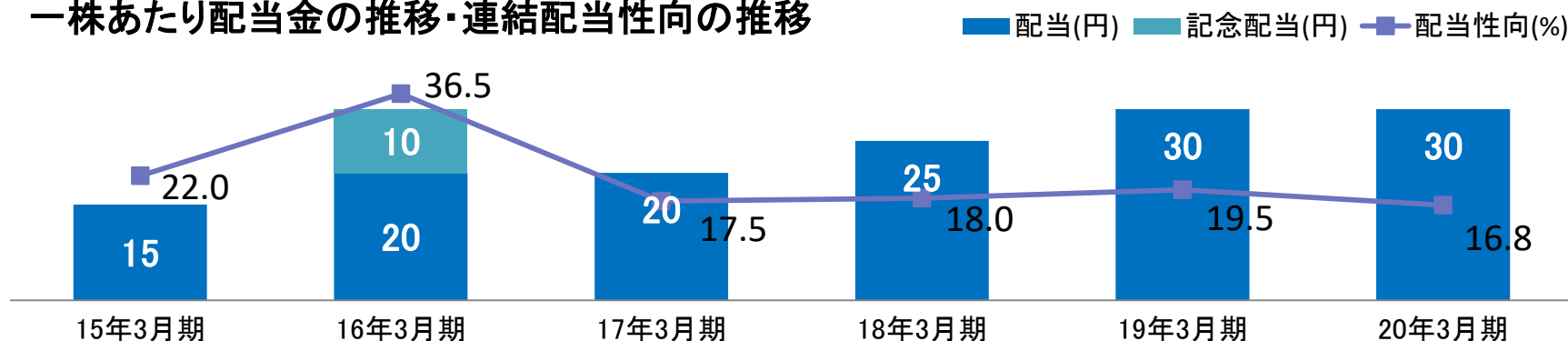
株主還元

- 財務状況および業績に応じた安定的かつ継続的な配当を実施

成長投資

- 将来の企業成長に必要な投資を継続
研究開発、M&A・アライアンス、人材育成

一株あたり配当金の推移・連結配当性向の推移



2021年3月期の配当予想につきましては、現時点で適正かつ合理的な算定が困難であることから、未定とさせていただきます。

NSW

Humanware By Systemware